インパクト・ワールド・サミットにご参加された皆様をお迎えして

Mrs. Prateep Ungsongtham Hata
（プラティープ・ウンソンタム・ハタ先生）

Duang Prateep Foundation（ドゥアン・プラティープ財団）創設者

クロントイ地区のスラムに生まれ6歳の頃から路上で物売りとして働く。1968年（当時16歳）に「教育こそが生活を大きく変える原動力になる」と確信し、姉とともに自宅の軒先に「1日1バーツ学校」を開設。様々な苦難を乗り越え、1978年にアジアのノーベル賞と呼ばれる「ラモン・マグサイサイ賞」を受賞しドゥアン・プラティープ財団を設立。1980年にはロックフェラー財団の「優れた青年賞」、2004年にはスウェーデン王室より「世界子ども賞」を受賞。タイの上院議員当選を経て、政府の「女性の職業促進事業」理事長にも就任。現在も「生き直しの学校」を含む様々なプロジェクトや活動を通じて地域の生活環境改善や教育促進に尽力している。

ドゥアン・プラティープ財団の詳細はこちら

去る２月、「生き直しの学校」カンチャナブリ校では、インパクト・ワールド・サミットにご参加されたボイスホビークラブのご一行３０名の方々をお迎えいたしました。カンチャナブリ校は、虐待や家庭崩壊等で傷ついた少年少女たちが豊かな自然環境の中で心を癒し、共同生活を通して勉学に励んでいける施設として運営している当財団の一つの事業です。

この日、ご来訪いただいた皆様は、お車から堂々とした輝きを持って降りられ、万遍の笑顔で子どもたちに接してくださり、周囲にいる私たちも大変感動いたしました。乾季中の暑さにもかかわらず、皆様はビーズ作り等のたくさんの活動を子どもたちと一緒に行われ、楽しい歌声も披露していただきました。皆様のご来訪は、子どもたちやスタッフにとって大きな励ましとなり、決して忘れることのできない体験をすることで、子どもたちの将来に役立つ活動となりました。

ここで、ドゥアン・プラティープ（希望の灯火）財団について少し説明させていただきます。財団は、今から４６年前に設立されました。その

１０年ほど前、姉のミンポーンと私（プラティープ）は、スラム内の貧しい子どもたちが何とか文字の読み書きができるようにと、自宅の軒下で「1日1バーツ学校」を始めました。子どもたちの生活や居住問題、各種証明書や公共サービス（水道・電気）の不備、薬物や犯罪など、貧困層の人々が直面する数々の問題を解決するため、地域住民委員とともに多くの活動に取り組み続けた結果、やっと 10 年後に社会的に理解されることになったのです。そして、１９７８年にフィリピンの『ラモン・マグサイサイ賞』を受賞し、その当時の賞金２万米ドルを投じて「ドゥアン・プラティープ財団」を設立しました。財団は、その後も地域の子どもたちに対する教育促進と地域開発のための事業を中心に実施し、現在に至っています。

これまで財団は、皆様一人一人からの激励と心温まるご支援を受けてまいりました。ここに改めて感謝申し上げます。

なお、ドゥアン・プラティープ財団の活動についてご関心をお持ちの方は、当財団のホームページ www.dpf.or.th をご覧いただければ幸いに存じます。ありがとうございました。

カンチャナブリに導かれて

中島由賀（なかじまゆか）

カンチャナブリ市在住。2005 年にタイ人と結婚し、タイでの生活が始まる。現在、3男1女の母親、2015 年に Muang Kanchanaburi Church の牧師と任命され、主任牧師である夫と共に日々奮闘中。2007 年から始まった Giving Love 法人 Santoh International Child Development Center のセンター代表。

Santoh International Child Development Center の子供達

カンチャナブリとの出会い

私は、クリスチャン家庭の中で育ちました。進路を決める時、人の役に立つ仕事がしたくて看護の道に進み、淀川キリスト教病院で看護師として３年間働きました。その後、オーストラリア、アメリカ、東南アジアの国々に学びや研修などで滞在する中で、世界にも目を向けるようになっていきました。その後、神学校を卒業しました。2004 年にタイの宣教旅行に参加することになり、カンチャナブリ市教会で１週間ほど滞在しました。その教会に、1965 年からカンチャナブリに宣教師として来られた日本人の君枝先生がおられました。私達の旅行スケジュールのアレンジや通訳をしてくれたのは、君枝宣教師の長男、エリシャ牧師でした。宣教旅行中にエリシャ牧師と出会い、お互いに神様の導きを感じて 2005 年に結婚しました。4人の子供達の育児と教会での奉仕に奮闘し、あっと言う間に19年が過ぎました。

カンチャナブリでの活動

私達の教会は、カンチャナブリ県カンチャナブリ市にありますが、教会がある Taopoon という地域は、貧困、家庭崩壊、麻薬の問題、暴力などが多くて有名な場所でした。近所から子供を怒鳴る親の声が聞こえ、子供達が裸で道を歩いている姿を見て心を痛めたエリシャ牧師は、子供達に何かしてあげたいという願いから「子供達に夢を与える」というプロジェクトが始まりました。25 年程前から、毎週土曜日に子供達が教会に集まり、色々な活動を行っています。今まで、1000 人以上の子供達が参加してきました。

また私達は、17 年前にカンチャナブリ市から約 40km 離れたセントー村で、ミャンマー人の子供達の為に学校（Santoh International Child Development Center）を始めました。その村で、たくさんのミャンマー人が働いていますが、当時、学校に行くことが出来ない子供達がたくさんいました。学校では、毎週火曜日から金曜日まで、英語、タイ語、ミャンマー語、算数などを教え、土曜日は聖書の学び、ゲームやスポーツをしています。現在は、コロナの影響で生徒の数が減り、約 60 名の子供達が毎日学びに来ています。これからもタイ人、ミャンマー人の子供達に夢と希望を与えるお手伝いが出来るように頑張っていきたいと思います。

毎週土曜日に教会に集う子供達

Santoh International Child Development Center の詳細はこちら

> クリニック

腰が痛い方、姿勢が気になる方必見★

> ストレッチ

1回で劇的に変わる!!

> 歯医者さん

絶大な信頼と安心感！